

事務事業名		日本水道協会参画事業			☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業																									
政策体系	政策名	01 潤いに満ちた快適な都市環境の創造			事業期間	予算科目 会計 款 項 目 事業 水道 01 01 04																								
	施策名	02 良好な生活空間の創造																												
	基本事業名	02 上水道・簡易水道の整備																												
根拠法令					☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和7 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 [計画期間] 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入																									
所属	部課名	水道事業所																												
	係 名	庶務係	電話	0192-27-3111																										
			内線	172																										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 日本水道協会、同支部へ会費を拠出し、協会や会員から水道事業運営に有益な情報を取得する。 正会員会費 = 均等負担額 + 水量割負担額 東北支部会費 = 正会員会費の1/2(100円未満切捨て) 岩手県支部会費 = 基本額+有収水量割額 事業費は、会費の他に協会が主催する会議及び研修会等への参加負担金及び旅費である。					全体計画 (期間限定複数年度のみ) <table> <tr> <td rowspan="7">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="5">事業費 財源内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費計 (A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費計 (B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A) + (B)</td> <td>0</td> </tr> </table>		総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計 (A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計 (B)	0	トータルコスト(A) + (B)		0
総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金																												
		都道府県支出金																												
		地方債																												
		その他																												
		一般財源																												
	事業費計 (A)	0																												
	人件費	正規職員従事人数																												
延べ業務時間																														
人件費計 (B)		0																												
トータルコスト(A) + (B)		0																												

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標										
手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 毎年、水道有収水量を基に会費を算定し、翌年度に(社)日本水道協会等から納入通知書が送付され、納入する。 協会が主催する会議及び研修会等への参加。 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度に同じ 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 (社)日本水道協会、同東北支部、同岩手県支部 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 水道事業運営に有益な情報を提供してもらう。 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 安全な水が安定して供給される。	  	活動指標(事務事業の活動量を表す指標) <table> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア 正会員、東北支部、県支部会費</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>イ 会議及び研修会等参加回数</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	ア 正会員、東北支部、県支部会費	千円	イ 会議及び研修会等参加回数	回	ウ	
		名称	単位							
		ア 正会員、東北支部、県支部会費	千円							
		イ 会議及び研修会等参加回数	回							
		ウ								
		対象指標(対象の大きさを表す指標) <table> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>カ 正会員数</td> <td>団体</td> </tr> <tr> <td>キ 東北支部会員数</td> <td>団体</td> </tr> <tr> <td>ク 岩手県支部会員数</td> <td>団体</td> </tr> </table>	名称	単位	カ 正会員数	団体	キ 東北支部会員数	団体	ク 岩手県支部会員数	団体
		名称	単位							
		カ 正会員数	団体							
		キ 東北支部会員数	団体							
		ク 岩手県支部会員数	団体							
成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) <table> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>サ 情報交換件数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>シ 会議及び研修会等が有意義と感じた回数 / 会議及び研修会等参加回数</td> <td>回 / 回</td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	サ 情報交換件数	件	シ 会議及び研修会等が有意義と感じた回数 / 会議及び研修会等参加回数	回 / 回	ス			
名称	単位									
サ 情報交換件数	件									
シ 会議及び研修会等が有意義と感じた回数 / 会議及び研修会等参加回数	回 / 回									
ス										

(2) 総事業費・指標等の推移										
			年度 単位	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
			都道府県支出金	千 円						
			地方債	千 円						
			その他	千 円	533	472	493	368	433	191
			一般財源	千 円						
			事業費計 (A)	千 円	533	472	493	368	433	191
	人件費		正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
			延べ業務時間	時 間	100	100	100	100	100	100
			人件費計 (B)	千 円	400	400	400	400	400	400
			トータルコスト(A) + (B)	千 円	933	872	893	768	833	591
活動指標			ア	千円	239	239	250	198	198	171
			イ	回	6	7	10	7	8	1
			ウ							
対象指標			カ	団体	1,558	1,404	1,300	1,392	1,377	1350
			キ	団体	198	163	150	162	161	160
			ク	団体	62	28	28	28	28	28
成果指標			サ	件	7	6	10	7	8	1
			シ	回 / 回	6 / 6	7 / 7	10 / 10	7 / 7	8 / 8	1 / 1
			ス							

事務事業ID	0315	事務事業名	日本水道協会参画事業
(3) 事務事業の環境変化・住民意見等 この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 昭和7年に(社)日本水道協会が設立されたことによる。			
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 日々進展する技術水準や多様化する諸問題に対処するため、協会及び会員からの情報収集等が必要となっている。			
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 特になし。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 水道に関する調査研究、情報収集等を行い、その結果を水道事業の運営に反映させ安全で安定した水道水を供給することにより、快適な都市環境の維持と向上が図られる。
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 水道は公営事業であり、地方公共団体の水道事業者が正会員となっている。
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 対象については当市で拡大又は縮小できるものではなく、また、意図については当市の水道事業の推進を図るためには適切である。
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない [理由] 必要な情報を協会や会員から提供してもらい、また、参加した会議及び研修会等は、水道事業運営に役立っており、成果は十分に現れているため、向上の余地はない。
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 水道事業に関する現在の情勢の把握や情報収集等が困難となることから廃止はできない。
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 現状では他に手段がない。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 負担金は均等割分と水量割分で算出されているため削減できない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 業務時間がほとんどかかっていないため、人件費の削減余地はない。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 最終的には水道料金に転嫁されている。

事務事業ID	0315	事務事業名	日本水道協会参画事業
--------	------	-------	------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 日本水道協会正会員になることで、協会や他の会員から水道事業に関する多くの有益な情報が取得でき、水道事業の円滑な運営に役立っている。																					
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり											
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 今までどおり事業を継続し、調査研究や情報収集を行い、水道事業の円滑な運営に努める。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし。																							

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	水道事業所長
-------	--------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☐ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																						
(2) 2次評価者としての評価結果	(3) 評価結果の根拠と理由																					
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☐ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☐ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☐ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☐ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table>	目的妥当性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり										
目的妥当性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																				
有効性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																				
効率性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																				
公平性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																				
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容)																						
																						
(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																						
<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持			×																		
	低下		×	×																		

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項